

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例
-------	------------------------------

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

大阪府箕面市

学校名

箕面市立萱野小学校

学校のURL

<http://www.city.minoh.lg.jp/kayano-ele/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】1年4学級 2年～6年3学級【支援学級 含院内学級】7学級【合計】26学級

児童生徒数

【全校児童数】 595人(平成23年12月1日現在) (内訳1年生120人 2年生95人、3年生88人、4年生97人、5年生106人、6年生89人)

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

学校教育目標

「自分がすき 友だちがすき 学校がすき」な子どもを育む。
地域、社会に開かれた「楽しい学校づくり」に努める。

人権教育に関する目標

自分を出発点としてよりよい社会づくりに参加していく子どもを育てよう
育てる力

もとめる 自分の課題をもとめ、とりくむ力を育てる

伝えあう 自分の考えをまとめ、表現し、伝えあう力を育てる

つながる 学習と学習、学習と生活・地域をつないでいく力を育てる

人権教育にかかる取組の全体概要

本校の人権教育は、よりよい社会づくりへの参加をめざし、子どもや地域の実態から出発するとともに、学校として共有された方針と方法によって運営されている。個々の教職員の願いや思い、気づきや工夫を伝えあう中で、年間を通しての教育活動や各学年の実践課題が繋がっていく。

人権教育カリキュラムは、前年度の総括と引き継ぎをもとに作成する。実践の展開に沿って見直しや修正をおこない、5月の連休明けには人権教育推進委員会や校内研修の場で交流する。その後、校内授業研・公開研究会や年度末総括などの機会を活用して、学校全体での交流や加筆・修正をおこなっている。

3. 特色ある実践事例の内容

3年 人権総合学習 かやの 100% 勇気 探検隊

(活動のねらい)

も と め る	<ul style="list-style-type: none">○自分の興味関心に即して、探究活動をおこなう・地域にある公園や公共施設について調べ学習をおこなう・調べ学習をとおして、そこに関わる人たちの思いを考える
伝 え あ う	<ul style="list-style-type: none">○調べたことや、聞き取ったことをまとめて共有する・調べてきたことを、共有し、まとめる・調べたことをもとに地域のよいところ、紹介したいところを発表する
つ な が る	<ul style="list-style-type: none">○活動を通して学んだことを活かし、仲間や地域の人たちとつながる楽しさを味わう・地域の公園や施設に出かけ、そこで出会った人たちとよいつながりをつくろうとする・仲間と協力して、調べてきたことをまとめ、CMをつくる・自分たちが調べた成果を発表することで他学年や地域の人たちともつながる

(取り組みのきっかけ)

昨年度は校区探検や世代間交流会での出会いを通して、地域とのつながりをつくっていった。自分の家の周りのすてきな場所をみんなに伝えたり、実際そこへ行ったりすることで地域にある場所や施設、道に興味を持つ子どもが多くいた。しかし、子どもたちの生活範囲や行動範囲を見たり地域についてのことを聞いたりすると、家の周りの場所で完結してしまっており、校区全体のことを把握しきれていない子どもたちの現状が見えてきた。そのため、今年度は地域についてより深く知り、調べ、地域への視野を広げていけるようにしたいと考え、このテーマを設定した。

この取り組みを地域と本格的に出会う入り口とする。その中で地域に関するCMを子どもたち一人ひとりが役割を持ちながら作っていく。地域が好きで地域の人たちとつながりを深めていこうという気持ちを持つ第一歩にしていきたい。



お店調べ



地域を調べよう

1学期 発見！校区の公園のいいところ

おすすめポイントを見つけよう

2年生の「まちたんけん」を思い出しながら、みんなにおすすめしたい場所を考えた。多く出てきたのが、校区にある公園についてであった。子どもたちの生活範囲の中で公園というものが大きな割合を占めていることを感じたため、これを地域調べの入り口にしていくことにし、調べたことを掲載していく巨大な地図を作るということを目指していった。

公園を調べに行こう

子どもたちから出てきた公園について、みんなで行った。公園に行った後は その公園のよかったところ おすすめしたい場所やもの こんな人がいた 実際遊ぶとどうだった、の4点をクラスごとに交流した。その後、各々公園について、みんなに知ってほしいことベスト3をクラスごとに考え、その情報を地図に掲載していった。



<子どもたちが考えた公園のいいところベスト3>
長くて早くて、だれでもすべれるすべり台
木がいっぱい、日かげも多い
ゆうぐがいっぱい

こんな公園あったらいいな

公園に込められている思いにふれさせようと考え、こんな公園があったらいいなということを班ごとに考えていった。「家族みんなで楽しめるようにしたい」「疲れたときに休める場所があったほうがいい」などの意見を出しあいながら活動を行った。この活動の後には、図画工作の時間に、自分たちが考えた公園を粘土で作ることもした。

公園をつくった人の思いを聞こう

また、実際に当対池公園ができた際に、計画段階から関わっておられた方にそのときの思いを聞かせてもらった。当対池公園を作るときは、地域の人、当時の萱野小学校の児童、市役所の人などたくさんの人で話しあったことも教えてもらった。そのお話から公園は、みんなの気持ちがこめられて作られていることに気づくことができた。

公園おすすめレポートを作ろう

調べてきた公園から、もっと調べてみたい公園を選び、一人ひとりレポートを書いた。自分たちから進んで公園へ調べに行き、まだ見つけていないおすすめしたいところや自分のお気に入りの遊び方などをまとめていた。

公園のおすすめを1年生に発表しよう

1年生を招待し、発表会を行った。当日は、自分たちの公園について宣伝を行い、各教室に呼び込み、大勢の1年生の前で発表していた。自分たちの見つけたおすすめのポイントや遊び方を真剣に聞いてもらい、自信に満ちた顔で発表できた。

公園以外のおすすめポイントを探そう

夏休み中の課題で、1学期に調べた公園以外にどんなおすすめのポイントがあるかを調べた。文化センターや図書館などの公共施設を書いてくる子ども、地域にあるお店について書いてくる子どもがいた。ここで出てきたポイントをもとに2学期に学習計画を考えた。

2学期 萱野のおすすめポイントを見つけよう

お店調べ

夏休みの宿題で、公園以外でおすすめしたい場所について書いてくるようにした。近隣の店舗について書いてくる子どもが多くおり、社会の学習とも関連付けてお店調べを行い、自分たちの地図に情報を増やしていった。その中から6つの店に分かれ店の工夫、特徴、働いている人の思いをインタビューして知ることができた。調べたことはクラスの班で発表した。また書いたレポートを一つにまとめ、新聞として掲示した。

学校の中のおすすめポイントを見つけよう

一番身近な施設である学校のおすすめが何かを考え、調べる活動を行った。「自分たちで考えるだけではわからない所はどうしよう」と問いかけると「校長先生や他の先生にインタビューする」「学校を卒業した兄弟や、登校班にいる違う学年の友だちに聞く」などの意見が出てきた。子どもたち全員がインタビューを行い、聞いた内容を班で読みあい、情報を整理した。最終的に班の一人ひとりが一番おすすめしたいことを選び、レポートしてまとめた。

CMのひみつをさがそう

調べたことを多くの人に知ってもらう方法を問うと、CMという意見が出てきた。そこで、みんなで地域のCMを作っていくことになった。

まず、CMとは、どのようなものか知ることから始めた。教室に備え付けてある電子黒板や児童用のタブレットPCなどICT機器を活用し、実際、動画投稿サイトでCMを見ながら何のためにCMは作られているのか、どんなことが工夫されているのかを考えた。個々の机の上のPCでCMを見ながら、CMの工夫をたくさん見つけることができた。

<子どもたちが見つけた工夫>

- ・ 音楽がある・大勢の人でやっている
- ・ リズムのあるフレーズ ・楽しそうな絵
- ・ 最後に会社の名前を言っている
- ・ おいしそうに食べる演技 ダンスがある
- ・ カメラをズームしている ・何度も伝えたいことを言う

萱野のおすすめを調べよう

子どもたちが地域のどんなことを調べたいか考えた。出された意見の中から学年教



職員で子どもたちにぜひ出会わせたいことを話しあい、10ヶ所に絞った。子どもたちは、興味関心に沿ってグループに分かれ、地域へと出かけていく。地域で調べ学習を進めていく中で、多くの人や場所と出会うこと、地域全体のこと、地域の施設のこと、地域の人のことを知っていきながら、そこに込められている思いにもふれさせていくことをねらった。

プロのCM制作ディレクターに出会う

株式会社創叡(そうえい)で実際にCMを1000本以上作ってこられた新山ひろしさんのお話を聞かせてもらった。CM作りは仕事を分担して行うこと、必ずクライアント(依頼者)のニーズを聞くことなど、CM制作に関わるときに大切にしていること、CMを作るとはどんなことかなど教えていただいた。

「滝ノ道ゆずる」はどうやって生まれたのだろう(キャラクターについて知ろう)

箕面市では、地域活性化の取り組み「箕面のゆずともみじの里みのおプロジェクト」から生まれた「滝ノ道ゆずる」というキャラクターが人気を呼び、数多くの関連商品を生み出している。すでに学習したテレビCM同様の、みんなに知ってほしいという目的から生まれてくるキャラクターにはどんな工夫が隠されているか考えた。

おすすめポイントのキャラクターを考える

「滝ノ道ゆずる」が生まれたきっかけや、「滝ノ道ゆずる」の工夫されていることをヒントとして、それぞれの場所に合うキャラクターを考えた。何を伝えるための広告キャラクターなのかを考えながら活動を行った。

3学期 萱野のおすすめを発信しよう(予定)

ニーズを聞き取る

CMを作るためには、クライアントのニーズを知らないといけないことを新山さんから教えてもらっている。自分たちが調べたことに関わる人たちは誰に、どんなことを伝えてほしいのかインタビューを行う。

誰に発信しよう?

調べたことを伝えたい相手を考える。2学期の時点で考えていた大枠ではなく、具体的な相手について意識させたい。また地域から聞き取ったニーズによって、発信する相手意識が変わってくるはずである。

萱野のおすすめをまとめよう

伝えたい人を意識し、何を発信の中心にするのかなどを考えながら、おすすめポイントをまとめていく。

CMを作ろう

まとめたおすすめポイントをもとに、それぞれの紹介CMをつくる。

オリジナルCM発表会

作ったCMを学年で交流する。その後、伝えたい相手に向けてCMを発信していく。

4. 実践事例の実績、実施による効果

自分たちの家の周りのことしか見えていなかった子どもたちが、公園を調べ、お店

を調べ、地域を調べていく中で昨年度は知らなかったことを知り、見えていなかったことにも気づくことができるようになってきている。たいまつ・むぎわら、地蔵盆、お宝人権まつりといった地域のお祭りにも、昨年までは来たことがなかった子どもたちの姿が多く見かけられた。地域を題材に学習をすすめていることもあり、普段の教科学習だけでは見ることができない、いきいきと活動する姿、堂々と発表する姿、調べ学習を積極的にする姿などを見せる子どもがたくさんいる。ほとんどの子どもは、どの活動にも興味を持ち、積極的に参加できているため、徐々にではあるが地域における視野が広がってきていることに一定の成果を感じている。

その一方で、地域に関わる人たちの気持ちや思いを理解するまでには至っていない。また、情報を集め、文章にすることには、子どもたちに得意不得意がある。どの情報をいかし、取捨選択するのかというメディアリテラシーについても学ぶ場を設定していきたい。

今後は、より自分から地域へと関わっていかうとする気持ちを育てていくようにしたい。この地域にはどのような人たちがいて、どのような思いを持って暮らしているのかを少しでも知れるようにする。その中で、子どもたち一人ひとりが自分たちの住む地域がいいところで、この地域を好きだと思えるようにしていきたい。地域を調べ、まとめ、思いを聞き取り、CMを作るという一連の流れで、そのような気持ちを持つ第一歩となるように取り組みをすすめていく。

5. 実践事例についての評価

ふりかえりシートより

児童のふりかえり

ここに来て公園のことは良く知ったけれど、実はこういうところもあるよと7月14日の発表で聞いてよく知った。杉谷公園のネコ道というところはかくれんぼでなかなか見つかからないと知りました。

保護者のコメント

自分の知らないことがまだまだたくさんあると思うから友だちや先生からの話を聞いて知っていることを増やしてください。

児童のふりかえり

いろいろな公園を調べたり自分の考えを友だちに発表したりするのをすごくがんばりました。友だちや1年生に発表したりするのはちょっとはさかかったしきんちょうしたけれど、がんばって大きな声で言えました。

保護者のコメント

新たな発見や、調べたことを家でたくさん話してくれました。

ふりかえりシート

活動のふりかえり	達成した	達成しなかった	達成しなかった理由
友だちと協力して公園を探り、家と比べてみた	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
いろいろな公園について、調べてお話を聞けることができた	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
自分から発表したり自分の考えを友だちに発表したりするのをはかしくがんばりました	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
友だちや先生からの話を聞いて知っていることを増やした	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
友だちについて、お話を聞いて知ることができた	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
自分の考えたことをみんなの前で発表することができた	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

※もうお勉強でいっぱいだと思うことや、これからがんばりたいと思うことを書いてください。

いろいろな公園を調べたり自分の考えを友だちに発表したりするのをはかしくがんばりました。友だちや1年生に発表したりするのはちょっとはさかかったしきんちょうしたけれど、がんばって大きな声で言えました。

先生から

友だちからのコメント

いろいろな公園を調べたり自分の考えを友だちに発表したりするのをはかしくがんばりました。友だちや1年生に発表したりするのはちょっとはさかかったしきんちょうしたけれど、がんばって大きな声で言えました。

友だちからのコメント

いろいろな公園を調べたり自分の考えを友だちに発表したりするのをはかしくがんばりました。友だちや1年生に発表したりするのはちょっとはさかかったしきんちょうしたけれど、がんばって大きな声で言えました。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

箕面市立萱野小学校

子どもたちが自分の問題意識を出発点として探求した成果や、創りだした作品・提案を社会に発信していくことを大切にしている。また、人権教育計画は、前年度の同学年にただ習うスタイルではなく、毎年子どもたちのそれまでの蓄積や成果をふまえて新しく創るようにしている。とりわけ、総合的な学習の時間については、「人権総合学習」という位置付けのもと、毎年子どもたちの実態に即してテーマを設定し、そのテーマのもとに学習活動を展開している点に特徴がある。総合的な学習にあっても教科学習にあっても、学習の振り返りを重視することによって、メタ認知を伸ばそうとしている。実践事例にあるように、積極的に地域に出かけようとしている点、地域で取り組む人たちや社会で活躍する様々な人たちとの出会いを大切にしている点、保護者や校区の人たちの力を得て活動を展開している点も見逃せない。